

大野地区まちづくり推進協議会

1 基本データ

- 地区名 大野地区
- 地区人口 13,728人
(平成29年1月1日)
- 地区世帯数 5,165世帯
- 面積 約3.6km²



亀山の頂に建つ越前大野城

○地区の沿革

大野地区は、大野盆地の北西部の平坦地に位置し、東は上庄地区に接し、南は小山地区と上庄地区、西は乾側地区と小山地区、北は下庄地区に接していて、政治・経済ともに大野市の中心である。

古代より中世初期にかけては、政治経済の中心は小山地区や乾側地区にあり、大野地区は荒涼とした原野に数村が所在していたと考えられている。

中世中期には、亥山城（現在の日吉神社付近）の周辺に小規模な城下町が形成されていたが、今から400年以上前、天正期に金森長近が大野城を築城し、新しく建設した城下町が、大野地区中心部の街区や用排水路の原型となっている。

明治4年の廃藩置県により大野藩は大

野県となったが、その年のうちに福井県、足羽県とめまぐるしく変わった。県名はその後も明治6年に敦賀県、明治9年に



名水百選「御清水」

石川県と変遷したが、明治14年に再び福井県となり現在に至っている。

足羽県地理誌によると、廃藩置県当時の大野地区は戸数2,083戸、人口9,052人であった。

明治22年の町村制施行により、5つの小区がまとまって大野町が誕生した。大野町は、昭和29年の町村合併により大野市の一地区となっている。



亀山から見た市街地

2 現状と課題

大野地区は、亀山にそびえる越前大野城、碁盤目状に区切られたまち並みや寺町通り、城下町誕生のころから続くといわれる七間朝市など、400年を超える歴史の昔日を彷彿とさせる景観を今も色濃く残している。

広大な森林を持つ本市は湧水が多く、当地区には名水百選にも選ばれている「御清水」をはじめとする湧水地がいくつもあり、古くから地下水を生活用水として利用してきた。この地下水は、現在でも多くの家庭が飲み水などに利用しており、この地ならではの豊かな水文化を育んでいる。



新堀清水

当地区の「歴史・文化・伝統・水に育まれた城下町」を魅力として、市ではまちなか観光を推進しており、当地区への観光入込み客数は増加傾向にある。

しかし近年、車社会の進展や大規模小売店舗の郊外立地に伴って、人口が市街地から郊外等へ流出しており、市街地では商業活動の衰退、後継者不足等により空き店舗や空き地などが増加している。

こうしたことから、市では平成20年度に中心市街地活性化基本計画を策定し、交流人口の増加、居住環境の向上、商店街の

活性化などに取り組んでいる。



六間通り

一方、当地区は区域の大半を市街地が占め、また城下町を中心に発展した歴史などから、他地区のような「むら社会」の側面が無く、地区住民の多くは「大野地区民」としての連帯感、責任感が希薄であり、まちづくり活動への参加意識も極めて低い。

以上のようなことから、本年度も地区住民の連帯感の醸成と来訪者へのホスピタリティ向上を課題として、地区のシンボル「亀山」の魅力アップに取り組むこととした。



寺町

○実施主体

大野地区まちづくり推進協議会

3 大野地区まちづくり推進協議会の現況と課題

○組織

- ・対象地区 73地区 5, 165世帯
- 第1地区 1, 626世帯
- 第2地区 822世帯
- 第3地区 1, 129世帯
- 第4地区 432世帯
- 第5地区 605世帯
- 第6地区 551世帯

(平成29年1月1日)

○各地区・団体選出の委員により常任委員会構成

4 特徴・課題

○第1地区から第6地区までであるが、旧市街地とそのほかの地区では地域事情が大きく違い、地区間の調整に困難をきたしている。

○旧市街地は、周辺地区より世帯数が少ない上に、高齢化率が高く、各地区の活動に少なからず影響が出ている。

○大野公民館はあるが、大半の住民は市役所へ直接、出向くことが多く、「大野地区民意識」が希薄である。

5 具体的事業目的

- ①大野地区のシンボルである亀山の魅力を発信し、子供をはじめとした住民や観光客が楽しめるようにする。
- ②花見広場を造り、住民の憩いの場所を提供するとともに、樹木、花を植え四季を楽しむようにする。また、維持管理作業

を行うことにより、ボランティア精神の醸成と住民相互の絆を深める。

- ③子供たちを含めた住民に、亀山に対する誇りを醸成する。

6 事業の内容

亀山東側緩斜面を四季楽しめる花見広場とする目的で、今年は ①芝生、花苗等を植栽し広場を充実 ②大野市章や「ON O」の文字等の花壇を改良 ③2年後の福井国体を花いっぱいでお迎えしようとベゴニアを植栽 など、緩斜面の整備・改良を進め、亀山の魅力を高めた。



亀山東側緩斜面の整備

植物観察会

昨年に引き続き植物の観察会を実施し、亀山の魅力を発信した。



観察会の様子

7 事業の成果

亀山東側緩斜面の整備を進め、福井国体で訪れる方へのおもてなしに向けた景観の向上を図った。また、地域住民が整備や管理作業への参加を通じて、お互いの連帯感を醸成した。

また亀山の植物観察会では、幅広い年代から参加があり、散策を通して亀山の魅力を再発見した。



亀山緩斜面の管理（春）

8 今後の展望

平成28年に、結の故郷づくり交付金事業実施要綱が改正され、交付金の対象となる事業実施主体が、市が設置する公民館の区域を単位とする社会教育関係団体及び自治会となった。



亀山緩斜面の管理（夏）

＜社会教育関係団体とは＞

※大野地区各種団体連絡協議会構成団体

大野地区区長会、大野地区まちづくり推進協議会、大野地区体育協会、大野長生会、大野地区子ども会育成会連絡協議会、大野地区社会福祉協議会



そのため平成29年度は、大野地区各種団体連絡協議会において、結の故郷づくり交付金の活用方法を検討し、各団体における課題や地域の課題など、さまざまな案件について活用する方向となった。



それぞれの団体や地域が抱える課題について、大野地区各種団体連絡協議会で情報共有しながら取り組むことにより、大野地区の発展・住民意識の向上に向け、住民自らが主体的に企画立案し、事業を実施していくこととしたい。